

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.16

ドキュメンテーション



世新大学のスタッフ・大学院生と記念撮影

■台湾・世新大学における国際インターンシップ

鶴見大学ドキュメンテーション学科では、2011年度に国際交流協定を締結した台湾の世新大学との間で、昨年度、初の国際インターンシップを実施しました。この国際インターンシップは、2大学間の協定に基づくもので、ドキュメンテーション学科の専門科目として開講された「特別実習II」の授業として実施されました。学生が早い時期に海外の国を訪問して、共に学び、文化を理解し、他の国の学生との交流を深めることは、国際化・情報化が進展する現代社会では、とても大切なこととなっています。今回の訪問プログラムは世新大学の情報コミュニケーション学科とドキュメンテーション学科の教員が相談して作られました。

国際インターンシップに参加したのは、12名（2年生が6名、3年生が6名）で、2013年3月5日から13日までの9日間にわたり、台湾で開講しました。参加する前まで、学生は英語による自己紹介や授業に対する不安でいっぱいでした。ところが、世新大学の先生方と大学院生から心温まる歓迎を受け、それまでの不安は一気に解消しました。学生たちは趣味や文化についてお互いに話し、国や言葉を超えて親友となったようです。

昼間は授業や施設見学などがあり、夜は毎日のように世新大学の先生方や大学院生と食事を一緒に囲み、大いに台湾の文化を満喫しました。

今度は、本年11月に鶴見大学で世新大学の大学院生を受け入れる国際インターンシップを予定しています。

【国際インターンシップ日程】

- 3月5日 世新大学で英語による自己紹介
- 3月6日 故宮博物院と同図書文献館の見学
- 3月7日 世新大学で授業に出席、グループワーク発表
- 3月8日 國立臺灣大學図書館と台湾国家図書館の見学
國立臺灣師範大學との懇談
- 3月9日・10日 自由見学
- 3月11日 陽明山國家公園の散歩
- 3月12日 台北市立図書館の見学
世新大学で英語のプレゼンテーション

ドキュメンテーション学科

角田 裕之 Hiroyuki Tsunoda



世新大学校門前にて



台湾故宮博物院にて



世新大学 FM 放送スタジオを見学



国立台湾大学図書館貴重書展示コーナーを見学

台湾研修で一番興味深かったのは、智慧圖書館という無人図書館です。地元の地下鉄と協力している図書館で、駅の中にあります。整備や管理は大変かもしれませんが、日本にもこのような図書館があれば便利且つ、本に触れる機会が増えるのではないかと思います。現地では英語の必要性和日本についての知識不足を実感しました。自分から積極的に情報を発信できるよう、英語力と知識を身に付けたいと思っています。 ▶相川奈美

英語が話せないため、世新大学の学生とコミュニケーションを取るのに苦労しました。それでも、交流できたことが面白かったです。最終日の夜は、ロビーで世新大学の学生と楽しくお話ができてとても良い思い出になりました。公共施設には、タッチパネルがほとんど設置されていてデジタル化が進んでいると実感することができました。また、無人図書館があり自分で本の貸出ができるシステムにも驚きました。今回の研修で様々なことを学ぶことができ、文化に触れ良い経験になりました。 ▶大塚祐貴

台湾に行くことを決めたのは、日本以外の図書館を見てみたいという気持ちからでした。駅の中にある無人の図書館や、自然公園の中にあつてその場の雰囲気壊さないように佇む図書館などを見て、自分の中にあつた図書館のあるべき姿に新しい考えをもたらしてくれました。また、私は英語があまり得意ではないので、上手く向こうの大学院生とコミュニケーションが取れるか不安でした。しかし、大学院生の優しさに助けられて、「兄弟」と呼べるほどの仲になることが出来ました。海外に行くのはとても不安でしたが、楽しいことばかりで、行ってよかったと心の底から思いました。 ▶阪上 翼

今回の台湾研修で初めて異国文化に触れ、自分の知る世界がいかに狭かったかを痛感しました。特に感じたのはコミュニケーションの難しさです。必死に言葉を組み立ててもそれが上手く伝わってくれず、何度も歯がゆい思いをしました。しかし、何とか自分の言葉が通じた時、言葉にできない喜びと達成感を得ることができました。今までの生活から少し離れてみるだけで、視野は大きく広がり、自分が成長できるということを学ぶことが出来ました。9日間という短い時間の中で、自分の殻を破るための第一歩を踏み出せたように思います。 ▶山元美菊

私は、「特別実習Ⅱ」という授業で9日間、台湾に行きました。台湾に行って一番感じたことは、英語がまだまだ未熟だということです。自分の言いたいことが思うように相手に伝えられない時の悔しさは、今でも忘れられません。しかし、この経験によって語学の向上心にも繋がり、行って良かったと思っています。もし履修するかどうかが迷っているなら、是非履修してください。新しい発見があり、とても楽しいですよ。 ▶萩原千代恵



英語で自己紹介

海外研修へ行く前は楽しみな気持ちもありましたが、それ以上に不安の気持ちの方が大きかったです。それは、治安の面もそうですが、現地の大学生と仲良くできるかこの二点が不安の原因でした。しかし、台湾へ行くと世新大学生の皆さんはとても歓迎してくれて、すぐに意気投合できました。治安の面も悪いとは感じませんでした。台湾は親日国なので、市場へ行くと何回も日本語で声をかけてくれました。ですので、こちらも気分が良くなり、つついとお土産を買い過ぎてしまいました。 ▶島田哲弥



陽明山國家公園にて

9日間、世新大学や故宮博物館、国立・企業・公共図書館での講義や見学を通して、台湾における図書館や情報について学びました。その中で、一つ後悔があります。中国語も英語も上手く話せないため、日本語のできる世新大学の大学院生について頼ってしまい、あまり自分から踏み出せなかったことです。最終日に「今度はもっとちゃんと喋れるようになって会いに来る」と約束をしました。有言実行できるように、帰国してから少しずつですが英語だけでなく日本についても勉強し直しています。今度台湾に行った時は、世新大学の人たちと、英語で自分の国の良いところについて話し合いたいです。 ▶中村美咲



研修のまとめを英語で発表

今回の実習を通じて、今まであまり知らなかった台湾のことが、思っていたよりもずっと早く大好きになりました。大学院生のみなさんは日本にとっても強い関心や興味を持ってくれていることがわかり嬉しく感じたのを覚えています。滞在中にWBCの日本対台湾戦があり、日本が勝った次の日に台湾の人は実際のところどう思っているのか聞くと「これからは日本の応援に専念することができるよ」と言ってくれました。海を越えた先に友達がいるということをととても心強く感じています。みんなに会いに必ず台湾に行きます。 ▶堀越玲那

海外研修 in 臺灣

実習生の声

No.5

【ハワイ州立図書館〔ホノルル、ハワイ、アメリカ〕】

Hawaii State Library, Honolulu, Hawaii, USA

広い空、青い海、優しく暖かい太陽が人々を迎えるハワイの、観光の中心地ワイキキから、ダウンタウン方面に向かうバスで約20分、州庁舎の近辺で降りると、そこは自然公園のように広く敷地を使った官庁街になる。その一角にあるイオラニ宮殿の敷地の隣に、ハワイ州立図書館がある。

正面の様子は、アメリカの大都市にある利用者を威圧するような図書館とは違い、そこはハワイらしい、やさしく平和なたたずまいになっている。入り口前の芝生では、座り込んで本を読んでいる若者がいた。

建物は2階建てで、入り口のエントランスは、吹き抜けになっている。広い建物には見えないのだが、とても開放感がある。

館内や書架はとても整理されており、本一冊一冊が、綺麗に棚に収まっている。でも利用者が少ないということではないらしい。地元の人に聞くと、近所の高校生もよく利用するそうである。職員の努力だけではなく、利用者一人一人が気を配りながら本を読んでいるのだろう。



中庭

今回の一品は、ヤングアダルトのコーナーにあったSF小説である。わたしが好きなSFは、どうも大人が読むものではないらしい。アメリカの書店でもSFはマンガの隣の棚にあることが多い。40を過ぎてもSFを読んでいると、場合によっては恥ずかしい人になるようだ。

日本の風土病ともいえるハワイ熱にかかった人、そうでない人も、ホノルルを訪れる機会があれば、立ち寄ってみることをお奨めする。「ここで本が読みたい!」という気持ちがあるだけで湧いてくる。言い古された言葉ではあるけれど、ハワイはやっぱり、まったく素晴らしい。(大矢一志)



ハワイ州立図書館

今回の一品



ヤングアダルトコーナー

アクセス：バスを使い、ハワイ州庁舎やイオラニ宮殿付近の各停留所から歩いて5分以内。日本の各ツアー会社が提供する無料バスでも行ける。

開館時間：10:00-17:00（月曜・水曜） 9:00-17:00（火曜・金曜・土曜） 9:00-20:00（木曜） 日曜日は閉館

アドレス：Hawaii State Library, 478 South King Street, Honolulu, HI 96813, USA

<http://www.librarieshawaii.org/>

No.6

【山梨県立図書館〔山梨県甲府市、日本〕】

Yamanashi Prefectural Library, Kofu-city, Japan

甲府駅北口から徒歩3分のところに、山梨県立図書館（愛称：かいぶらり）がある。この図書館は2012年11月11日にオープンしたばかりの国内最新の県立図書館である。旧図書館より駅に近くなり、建物全体はガラス張りで透明性が高く、甲府の名産である葡萄棚を意識したデザインになっている。屋上の屋根に太陽光発電パネルを設置し、自然エネルギーを積極的に利用し、建物の材料に地元の再生木やリサイクル製品を利用し環境エコも意識している。建物は地上4階、地下1階からなる。4階は機械室のため実際の利用は1階から3階までで、地下は110万冊収納可能な書庫と貴重書庫になっている。



山梨県立図書館外観



図書館内

図書館のコンセプトは、山梨県民の誰もが気楽に利用できる施設として、人と人の交流が図れる図書館を目指すことである。そのための工夫が閲覧エリアと交流エリアの一体化である。エリアの床の色は異なっているが利用者はエリアを気にせず利用できる。館内にはガラス張りの交流ルーム、サイレントルーム、多目的ホールが随所であり、目的に応じて利用できる。2013年3月現在81万8,000冊を収蔵し、新館オープンにより利用登録者数が急増し8割が新規利用者で、1日の来館者は平均2,800人で約5.3倍増である。

新館オープンに際して導入されたのがICタグで、自動貸出機が館内に11台設置され利用階に関係なく自分のすぐ近くの自動貸出機でいつでも手続きができる。インターネットや電話で予約した資料は無人の予約資料受取コーナーに並べてあり、利用者自身が自動貸出機で借りることができる。館内に設置されたパソコンのほか、自分のパソコンを持込んでWi-Fiによるインターネットが自由に利用できる。2013年6月22日に世界文化遺産に登録された富士山の展示コーナーや、直木賞作家である館長の阿刀田高氏の館長関連資料コーナーもある。現在、有川浩著『図書館戦争』の映画が上映中であるが、地下の書庫で撮影が行われたそうである。まだまだ目が離せない話題満載の図書館である。（原田 智子）



自動貸出機

アクセス：JR中央線および身延線で甲府駅下車、北口のペDESTリアンデッキ（歩行者専用道）を利用して徒歩3分。

開館時間：閲覧エリア 9:00-20:00（平日） 9:00-19:00（土曜・日曜・祝日） 交流エリア 9:00-21:00

アドレス：山梨県甲府市北口2-8-1

<http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

この大学での一番のお気に入り、大学の入り口にある参道です。この通りは大きな木々がそびえ立っていてとても貫禄があります。また、毎朝通学する際、太陽の木漏れ日、葉っぱが揺れる音、鳥の鳴き声など様々な演出を感じることができます。この道を通ることで、自分の中で何かを感じる感性を磨ける場所でもあります。

ここを通った後に待っているのは授業と部活動の硬式野球部です。この大学では、4年間ノートパソコンを貸していただけるので、授業や自習に活用しています。また図書館でもパソコンを利用することができるので、検索やプリントアウトなど、有効活用するように心がけています。これらを通じて、勉学に対する環境が充実していることが分かりました。

また大人数の授業では、高校の授業とは全く異なり、部屋も広く、先生がマイクでお話をされる光景に、とても興味がわきました。ただ、このような講義では、聞いているだけでは頭に入らないので、ノートを丁寧に作り、形に残すことに取り組んでいます。先生とうまくコミュニケーションをとりづらい大人数の講義では、特に大切だと思います。

部活動の硬式野球部でも、学業を優先する伝統があるので、勉強時間不足の心配ありませんが、チームとしても個人としても結果を求められているので、一人ひとりの自主性が問われています。自分で考えて行動にうつす事というのは、社会のなかでも必要なものだと思うので、このような取り組みは、将来社会人になった時に役立つと思います。

私の大学生生活は毎日が充実していて、有意義に進んでいます。

学生の声

充実した日々を

Makiko Saito 齊藤 眞姫子

大学に入学して3ヶ月近くが経ちました。「大学では全て自己責任だ」、「留年だってある」、等々を言われていたので、入学するまで「講義を理解できるだろうか」、「履修登録が上手く出来なかったらどうしよう」、「自分で最初から何でもしないといけないのか」と不安で堪りませんでした。

しかし、入ってみたらそんなことはありませんでした。先生方との距離が近く、わからないことを質問しやすい雰囲気がありました。履修登録や必要な情報を見落とさないこと、一つ一つを着実に行ってきたら苦もなく大学生活に必要なことが身につけていました。集中力が続かないと思っていた90分間の講義も、自分の興味に基づいて履修登録をしたためにあっという間に過ぎてしまいます。履修登録の際、気になる科目が多く、また翌年は講義内容が変更されることもあるというのですから絞るのには苦労しました。受けたい講義がたくさんある、嬉しい苦労でした。現在少し苦労していることは、レポートの宿題です。慣れていないために休日がそれだけで潰れてしまいます。ですが、書く訓練は将来の為にも大切です。

新しいことを始める余裕はまだありませんが、趣味の読書の時間は通学時間が長いために十分確保されています。講義は面白く、趣味の時間も十分ある。充実した毎日です。ただ、不安なことは将来の就職です。まだ就きたい仕事を見付けていません。学内やバイト先、旅行先で多くの人と接し、会話をして見付け出したいと思います。

資格
取得展示作業の難しさや達成感 **学芸員資格**

Nozomi Okamoto 岡本 望

私は6月20日から26日まで、東京都江東区にある「江東区深川江戸資料館」で実習してきました。そこでは、江戸時代の七夕飾りの再現展示や小学生向け展示解説プログラムの作成などといった様々なことを経験させてもらいました。

特に印象に残ったのは、七夕飾りの再現展示です。実習生は主に七夕に関する解説パネルや来館者向けの配布資料作成などを担当したのですが、やるべきことが多く大変でした。しかし他の実習生たちと協力し、展示を完成させたときには多大な達成感を得ることができました。実際に来館者の反応をみることもできたのもよかったです。

今回の経験を今後何らかの形で生かしていきたいと思います。

クラブと両立して資格取得！ **情報検索基礎能力試験**

Takahiro Kaneko 金子 貴大

私は「情報検索基礎能力試験」を受け、合格することができました。この試験は、情報科学技術協会が実施している試験で、情報を効果的に検索し、それを活用するための基礎的知識を認定する資格試験です。

私は、部活動で野球をしているため、限られた時間の中で勉強することが必要でした。いかに効率よく勉強するかを考えました。試験で推奨されている教科書にひと通り目を通す前に、まず過去問題に取り組みました。そこで分からなかったところを復習し、頭に入れていくことで効率的に勉強することができました。試験の出題内容は原田先生の「情報サービス演習II」の授業の延長上にあり、授業で学習したことを理解していれば、ほとんどのことが分かります。基礎能力試験なので、難しくありません。授業で習ったことをきちんと復習していれば、簡単だと思えます。

これからの図書館で活躍できる司書を目指す人には、ぜひとって貰いたい資格だと思います。



成田 康子 著『みんなで作ろう学校図書館』(岩波ジュニア新書・2012)

* 鶴見大学図書館の請求記号は 410.23/H(開架・一般)

小学校から大学まで、およそ学校にある図書室は、用事があるから入る所ではなく、ふらりと立ちよったり、毎日覗いたり、人によっては空いた時間に入る場所であるのが、本来の姿だと思います。

この本には、そのような図書室を作り出すには、図書員の活動がとても大切なこと、そして、どの学校でも作れることが、経験談と共に書かれています。

図書委員のみなさんがこの本を読んだら、きっとドキドキしてくると思います。(大矢 一志)

■ 4月3日 新入生交流会



新入生交流会

新入生(10期生)を囲んで、在校生と教員が企画した交流会が初めて開催されました。新入生も含め、全員が前に出て、一人ひとり自己紹介をしました。その後は、在校生と教員が新入生を連れて、学内を散歩しながら案内をしました。

■ 4月4日 新入生ノート PC 貸与

新入生全員にノート PC を貸与しました。梱包されているパソコンや付属品を箱から慎重に取り出している新入生が、とても新鮮でした。

■ 4月5日 平成 25 年度入学式

ドキュメンテーション学科 10 期生の皆さんが入学しました。既に、交流会やノート PC 貸与で顔見知りになっている新入生の皆さんの顔が、今までよりもほころんでいた気がしました。

■ 4月20日 バス見学会 (横浜開港資料館・三溪園)



横浜開港資料館講堂

横浜開港資料館と三溪園へと見学に行きました。資料館では主任調査研究員の方に特別企画展の解説をしていただきました。小雨が降っていましたが、三溪園の中を散策し、美しいサクラソウや藤棚に出会えました。

■ 5月20日・6月3日 パソコン補習

パソコンを文房具の一つとして使うためには、ある程度のタイピングスピードが必要です。ドキュメンテーション学科では、10 分間で和文を 400 字という基準を設けています。これはワープロ検定準 2 級と同じものです。

■ 5月23日・24日 新入生本山一泊参禅会

建学の精神を養うため、新入生が曹洞宗大本山總持寺に一泊し、精進料理をいただき、坐禅を行うことで、雲水(修行僧)の生活を体験して来ました。

■ 5月31日 学内合同企業説明会

約 50 社が鶴見大学に来て、学生に対して説明会を行っていただきました。4 年生が参加し、自分をアピールしていました。

■ 7月8日・9日 XuYang 氏による学内公開授業



北京大学徐扬 (XuYang) 准教授による公開授業

5 月に北京大学情報管理学科と鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科との間に締結された国際学術交流協定に基づいて、2 大学間の学術交流の一環として実施されました。

※活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

- 「ドキュメンテーション」第 16 号をお届けします。
- 昨年度から新たに導入された海外研修(台湾世新大学)の様子を紹介します。今秋には、昨年度に引き続き、世新大学より大学院生を迎え入れる予定です。
- 入学して 3 ヶ月たった新入生の声、資格を取得した上級生の体験談などもお伝えします。

ドキュメンテーション 第 16 号
 平成 25 (2013) 年 8 月 4 日 (土)
 鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 (〒230-8501)
 ☎ 045(580)8149 発行責任者: 原田 智子
 学科ホームページ: <http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>